



発行・京都障害者スポーツ振興会
題字 芝田 徳造

新しくなった府立体育館

京都府立体育館 主査 南條 良樹

昨年10月から始まりました京都府立体育館のリニューアル工事は、8ヶ月にも及ぶ工事期間を終え、ようやく6月1日(土)リニューアルオープンしました。府民の皆様には、本当に長い間、ご不便をおかけし申し訳ありませんでした。楽しみにされていた「障害者スポーツのつと」も、平成25年6月9日(日)に再開させていただきます。

さて、京都府立体育館は、昭和46年(1971年)10月10日の開館以来、今回のような大規模な改修工事は実施しておりませんでした。床や天井、照明器具、また、廊下やトイレ、シャワー等に不具合が生じておりました。御利用いただいた府民の皆さんにも、長い間、ご不便を

おかけしておりました。また、京都府の基幹体育館として、国際的な試合や全国的な試合が開催しやすいように整備することや、環境先進地である京都にふさわしいエコな体育館にしていくことが強く求められていましたので、このような大規模な改修工事が実施されることになったのです。

今回の工事では、次のようなことが実現しました。

- 1 第1、第2競技場共に床面を全面張り替えました。また、床下の基礎部分も更新し床全体を強化しました。
- 2 競技場の照度が、第

1 競技場は約1000ルクスから1500ルクス以上に、また、第2競技場は約400ルクスから1000ルクス以上に向上しました。

3 第1競技場の空調機器が新たに更新され、自動温度調節となりました。

4 会議室を4室から10室に増設しました。その中には、国際大会が必要となるドーピング検査を実施する部屋や審判控室、貴賓室等にも対応できる部屋も整備しました。

5 第1競技場の観覧席に3・9m x 6・8mの大型映像装置を新設しました。

6 第1競技場の観覧席には、放送用ブースを新設しました。また、音響設備も更新され聞こえやすくなっています。

7 第1競技場のフロアに設置できる480人分の移動観覧席を導入しました。

8 その他にも、床置き式の電光掲示板や国際大会対応のバスケットボールゴールを導入しています。

府民の皆様がより一層使いやすい体育館として

環境先進地・京都にふさわしいエコ体育館として

1 競技場をはじめ館内照明にLEDを採用しました。

2 屋上に太陽光発電設備を新設しました。

3 駐車場に電気自動車用急速充電器を新設しました。

- 1 トイレは増設、また、全て洋式となり清潔感溢れるトイレとなりました。
- 2 車いす・乳幼児連れ・オストメイト対応の多目的トイレを増設しました。
- 3 更衣室も改修し綺麗になりました。また、更衣室内にもトイレが新設されました。
- 4 玄関前にスロープを新設し舗装も改修しました。
- 5 第1競技場の観覧席に階段手すりを新設しました。
- 6 第2競技場には、バドミントン、卓球競技にも対応できる空調機器を新設しました。

このように今回の改修工事により、「国際規格に対応」するとともに「人に優しく」、「環境にも優しい」体育館として生まれ変わることができました。(裏へ)

行事予定	6月	15(土)	京都障害者フライングディスク大会	京都府立体育館	来月の「つと」 7 / 14 第2日曜日
		16(日)	第33回全京都障害者総合スポーツ大会 総合開会式・卓球バレー大会	京都府立体育館	
		23(日)	乙訓障害者スポーツのつと	向日市民体育館	
			城陽障害者スポーツのつと	サン・アビリティーズ城陽	
	7月	9(火)	丹波障害者のスポーツのつと	丹波自然運動公園	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2013年5月5日に一部更新)					

(表より)

さて、楽しみにされていた「障害者スポーツのつどい」も6月9日(日)から再開いたします。今年度は10回の開催となります。通常は第2日曜日の開催ですが、今年度の9月と3月は、国際大会の開催と重なりましたので、「障害者スポーツのつどい」は、第3日曜日の開催となっております。皆さま注意をしまして御参加ください。



皆さんの御来館を心からお待ちしております。

水泳のつどいから 学んだこと

参加者と一緒につくる “つどい”

昨年12月の水泳のつどいは、風邪や家族の介護で欠席されるリーダーが多く、プールに来ることができたのは2人だけでした。2人といつても1人はロビーで受付を行い、プールの中には1人という体制になります。2人で顔を見合わせ焦りながら、「参加者やヘルパーさんにも手伝ってもらおう。発想の転換や」と話し合いました。参加者もヘルパーの方も毎回参加されている人が多く、プログラムも理解されているので、今までリーダーが準備して行っていた「ボール投げのだけ」の参加から、ゲームに主体的に参加していただけることになりました。受付で「リーダーが少ないので迷惑をかけるかも」と伝えると、多くの参加者やヘルパーの方から「何か手伝うことがあったら言ってみよう」と声を掛けてもらえました。こうして参加者と一緒につくることのできる「つどい」を行う事ができたのです。

的に関わってもらえるようなやり方も考えなければと感じさせられた1日でした。

参加者のニーズは何か

もう何年も参加している2人の姉妹のお母さんから遠慮気味に話された内容は次のようなものでした。

「いつも2人も、水泳のつどいに参加することを楽しんで、朝からプールに行く準備をしていた。ところが先月からなかなか準備をしない。プールに行く時間になってもプールに行くと言わない。いろいろ聞くとプールで泳ぎ方を覚えるように指導されるのが辛いうだ。」

水泳のつどいには就学前から参加されていました。参加された最初の頃は、プールに圧倒されたのが緊張してお母さんに抱きついたままでした。やがてプールの環境に慣れ、幼児用プールで水遊びをするようになりました。その後は大きいプールでの水遊びもできるようになりました。最近は2人もヘルパーを付けプール狭くと泳いでいます。

私たちはボランティア病というか、自分たちの思いを優先させてしまっています。水に慣れたら、次は「泳ぎを覚えよう」「ヘルパーを

取りもう少し泳げるだろう」という思いばかりを強くしてしまっていたのです。

リーダー同士でもヘルパーを付けて泳いでいるし、後は何時ヘルパーを外すかな、などと話し合っていました。

そのことが2人を追い込んでいたのでしょう。子供の思いよりボランティアの想いを優先していたことになりません。スイミングスクールなら当然水泳を覚えることを優先することになります。水泳を覚えるよりも、水遊びをしたいというものであればそれを尊重しなければなりません。原点を忘れずに活動を続けなければなりません。

第33回全京都障害者総合スポーツ大会申込み締切

水泳大会 7月13日(土) 参加費 500円

陸上大会 7月27日(土) 参加費 500円

アーチェリー大会 8月22日(木) 参加費 500円

申込み・詳細は振興会迄 電話 075-712-7010

「書籍紹介」 久門 誠

「重い障害を 生きるということ」 高谷 清 2011, 岩波新書

この本は、「重症心身障害」といわれる人たちについて書かれたものです。長年医師として「びわこ学園」に勤められている高谷先生により書かれています。それゆえに、日常生活に関する細やかな描写や考察に溢れています。本の帯には「生きていくのがかわいそう」なのか? という刺激的な一文が記されています。が、そうではないということに心が読み進めていくごとに広がります。

私は「障害児者の親の会」の運営する事業所に勤めていますが、あるとき一人のお母さんが「私たちはこの子たちのことをうまく言葉で表現できない事が多いけれども、この本は、親の思いもすくなく代弁してくれている」と薦めてくださいました。

格差社会が進行していることとは否定できない事実です。「貧困」「孤立」「無縁」といった言葉をよく耳にするようになりました。「一人ひとり命と尊厳の大切さ」「人と人とのつながりの大切さ」を今一度問い直したいものです。「能力」や「効率」ばかりが重視されがちな社会であるからこそ「重い障害のある人」が社会に問いかけるものをつかり考えていきたいです。